

あすなろ

2025年9月19日

みみしター

第5号

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校内支援部（文責 田路）

デフリンピックに向けて、

聴覚障害者の壁を除くための取り組み

11月に日本で初めて開催される「デフリンピック」が、いよいよ開幕間近になりました。選手などおよそ6000人が、会場となる東京を中心に集まりますが、聴覚障害がある人たちを迎えるための環境整備が課題となっています。

カフェや美容院などにスマートフォンや、透明のディスプレイに会話を表示するシステムが設置

東京メトロの駅で行っていた駅改札でのアナウンスを文字化する取り組み

都内のホテルでは、一部の客室で音声可視化装置を設置。来客時や火事などの緊急時には音で知らせるだけでなく、客室と浴室に設置されているモニターで知らせるほか、部屋のライトが点滅

環境のバリアフリーに詳しい、東洋大学の高橋名誉教授は、日本で初めて開かれる東京デフリンピックが、聴覚障害者と聴者がお互いのことを深く知る、大きなきっかけになると話しています。「聴覚障害者の困りごととして、災害時など万が一の時の情報が文字情報で入ってこないことなどは、これまでも議論されてきています。ただ、法制度などにまで進められていないのが実態です。世界中から聴覚障害者が訪れるこのタイミングで、当事者の声を聞いて、日本の環境のどこに問題があるのか改めて整理する必要があります。その上で、行政などが聴覚障害者への支援を、どのように共生社会に組み込んでいくのか改めて考えることが重要です」

（出典：<https://www.nhk.or.jp/shutoken/articles/101/023/31/>）

こうこうせいはいはつ 高校生開発の「SOSカード」

えすおーえす 東淀川区役所で配布へ

聴覚に障害のある人が、災害時に周囲の人とコミュニケーションをとるのに役立ててもらおうと、高校生が開発した「SOSカード」というカードの配布が、8月26日から大阪・東淀川区役所で始まりました。

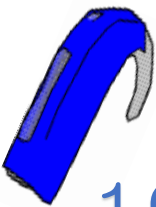
「SOSカード」は、聴覚に障害のある人が、災害時に命を守るために、周囲の人に見せてコミュニケーションをとるのに役立ててもらおうと、関西大学北陽高校の3年生4人が開発しました。

阪神・淡路大震災を経験した聴覚障害者にヒアリングなどをして制作し、18枚で構成されたカードには、避難するときや避難所で使うことを考えて「避難所はどこ?」とか「なんで並んでいる?」などといったことが、イラストとともに描かれています。

開発したメンバーの1人は、「いよいよ実際に手にとってもらえる機会になるのでうれしいです。よいカードができたのでぜひ持ち歩いていただきたいです」と話していました。

東淀川区保健福祉課の課長は、「当事者にも話を聞いてカードを作ったと聞きすばらしいと思いました。災害は起きない方がよいですが、いざという時には役立つと思うので、区役所としても後押ししたい」と話していました。

(出典: <https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/>)



補聴器店



来校日

10月

< 13:10~ 通級教室 >

□神戸ヒヤリングセンター	10月9日(木)	10月23日(木)
□トーシン姫路補聴器センター	10月3日(金)	10月17日(金)

補聴器の故障や買い替え、イヤホンの作り替えの際は、補聴器店 来校日を確認して、担任にお申し出ください。